

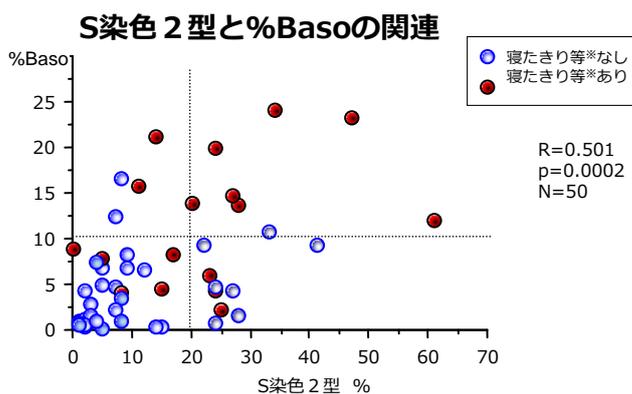
Lab News

テーマ “ADVIA2120i 体液モードを用いた尿検体解析の有用性について”

血算分析装置 ADVIA2120i は、体腔液を測定する“体液モード”を有している。体液モードでは、胸水、腹水をはじめとする体腔液の細胞数測定及び白血球分類が可能である。細胞数算定においては細胞数 $5/\mu\text{l}$ から $5,200/\mu\text{l}$ までの希釈直線性を有し、細胞総数の同時再現性、目視法との相関は良好である。今回、体液モードにて部分尿を測定し、その有用性を検討した。平成 26 年 9 月から平成 27 年 4 月に、尿定性、尿枕渣の同時オーダーのあった 50 例を対象とし、患者背景との関連を検討した。ADVIA2120i のスキヤッタパターン(%Baso)と S 染色との対比を行い、S 染色の評価は、全く染色されていないものを 0 型、細胞質のみ染色されているものを 1 型、核まで染色されているものを 2 型と分類し、尿中白血球を 2 分以内に 100 カウント算定した。全ての分析は、検体提出から 4 時間以内に行った。

寝たきり等(廃用症候群、寝たきり、要全介助、意識障害)の症例は%Baso 及び S 染色 2 型が有意に高値を示し、%Baso10%以上及び S 染色 2 型 20%以上の群で、寝たきり等の割合が高い傾向にあった(下図)。

ADVIA2120i 体液モードで尿検体の測定では、尿中の細胞数測定と分画が自動算出され、そのデータから得る情報は有用と思われた。更なる検討を深め臨床に貢献出来るよう努めたい。



※寝たきり等とは、廃用症候群、寝たきり、要全介助、意識障害(+)の患者群を示す。

文献

- 1)竹村浩之,田部陽子他:自動血球分析装置 ADVIA2120i による体腔液測定に関する検討,日本検査血液学会誌,2012;13;第 2 号:176-181
- 2)田中雅美,宿谷賢一他:総合血液学検査装置 ADVIA2120i による髄液・体腔液細胞算定の検討.日本臨床検査自動化学会会誌,2013;38;第 1 号:129-136

<まとめ>

1. 血算分析装置、ADVIA2120i 体液モードにおいて部分尿検体の検討を行った。
2. S 染色の染色性と%Baso を組み合わせると、患者背景(寝たきり等)に関連を認めた。